



「社会モデル」の考え方を大切にしましょう！



インクルーシブ教育だより前号（VOL.43）で紹介した『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』の第Ⅱ部各論「4. 新時代の特別支援教育の在り方について」には、次のようなことが示されています。

全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性の一点目には、

- 障害のある人や子供との触れ合いを通して、障害者が日常生活又は社会生活において受ける制限は障害により起因するものだけでなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという考え方、いわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえ、障害による学習上又は生活上の困難について本人の立場に立って捉え、それに対する必要な支援の内容を一緒に考えていくような経験や態度の育成が求められる。

とあります。

「社会モデル」とは、障害は物や環境等といった社会と、個人の心身機能の障害の相互作用によって作りだされており、社会的障壁を取り除くのは社会の責務であるという考え方です。

文章はさらに次のように続きます。

また、こうした経験や態度を、多様な教育的ニーズのある子供がいることを前提とした学級運営・授業づくりに生かしていくことが必要である。

つまり、社会モデルの考え方を生かした学級運営や授業づくりの必要性が述べられているのです。

さて、話は変わりますが、富山県内においても、障害の有無にかかわらず全ての児童生徒が分かりやすく学びやすい教育を目指すユニバーサルデザインの研修を行っている小中学校が増えてきています。どの学校も、授業づくりはもちろんのこと、人的環境や教室環境にも視点を当てて実践を積み重ねておられます。

今後も、子供同士が学び合い、助け合える温かい学級集団づくりを目指し、一人一人が安心して過ごせる居場所となるように、子供たちへの関わり方を見つめ直すとともに、子供たちの相互理解が進むことを願っています。

